

初心俳句日記抄（喜寿～傘寿）

2021年10月6日 6組 瀬戸章嗣

喜寿で俳句入門して4年目ですが、傘寿会に寄せて、俳句日記から10句選びました。
いつまでも初心を忘れずに、百歳まで詠み続けてみたい、と思っています。

人生の第四コーナー喜寿の春 …… 人生100年戦略で、第四コーナーからのホーム
ストレッチを展望した。ゆっくり歩いて、転ばずに、楽しくゴールしてみたい。

喜寿からの夢中の先は自分事 …… 生きる原動力の一部だった公益意識から解放さ
れて、自分事で、夢中になって生きてみたいと思うようになった。

隠退や解放感で春が来る …… 喜寿で職業から隠退すると、新鮮な解放感があった。
毎日が日曜日だが閑ではなく、やがて、やりたい事が次々に出てきた。俳句はその一つ。

喜寿弥生はじめる傘寿の髭おしゃれ …… 昔、商社の米国駐在で若造と見られない
工夫だった髭を、国内上司の意向が聞こえて剃った。今度はおしゃれが目的。

朝焼けや川面に鯉の口開きぬ …… 近くの平瀬川沿いに散歩すると、先に朝焼けが
見え、渡った橋から、川面に口を開け、誰かからの餌を求める鯉が見えた。

高原にコスモス揺れけり母の里 …… 幼い日に、母の郷里の仙石原で、従姉達が連
れて行ってくれた高原で見たコスモスの揺れを覚えている。母が好んだ花だった。

断捨離やさわやか天と地に通ず …… 断捨離をゆっくり実施中。実家の亡父母弟の
遺品整理と文書通読や家具の壊し大工などに、3年掛けたのもよかったと思える。

酒は五勺緑茶カクテル秋夕べ …… 還暦で日本酒は五勺と決め、水や湯割りの晩酌
を始めて20年になる。人肌温の緑茶カクテルありがたい秋に入った。

八十路秋バイクは残し車売る …… 80歳で車の運転を止めた。しばらくはバイク
を使い、その後も、無理のない何かで、自力快適生活の維持追求を考えていく。

越後よりぶどう届いて夕集い …… 次女から届いた甘いぶどう房を配りながら、妻
がコロナ自粛していた夕食会を呼びかけ、息子家族と義弟が楽しく集まった。

以上